

ボットを活用するプロジェクトマネジメントツールの提案

プロジェクトマネジメントコース 矢吹研究室 1342097 浜野太豪

1. 背景

2016年3月24日米マイクロソフト社が開発した人工知能ボットが公開された。ツイッターなどのSNSでユーザとの「会話」を開始した。「Tay(テイ)」と名付けられたこの人工知能ボットは、ユーザのツイートや質問に返信する中で、新しい言葉や会話を学習していくことを目的に開発され、衝撃を与えた。[1]

他の企業もボットに力を入れている。2016年に発表されたボット開発フレームワークは数多く、有名な企業ではFacebookやLineがあげられる。これらの企業はプラットフォーム用のボット開発フレームワークを公開した。ボット開発フレームワークが公開されたことによってコミュニケーションツールとボットの連携が容易になった。そのため技術者はボットの活用が求められる。

またコミュニケーションツールにSlackというものがある。Slackはリリース当初から爆発的な勢いで世界中に広まっている。当初はスタートアップ企業を中心に利用されていたが、最近ではGoogle, Microsoft, IBM, Sonyなど、世界の名だたる企業も次々に導入し始めている。Slackの利点はサービスとの連携にある。Google DriveやDropbox, Heroku, Githubをはじめ、449ものサービスと連携が可能で、その数は日々増え続けている。[2]

2. 目的

コミュニケーションツールSlackを利用してChatOpsを実現する。そしてシステム開発における、複雑な開発環境をSlackに統合する。統合することによって情報の共有、操作の可視化を行う。

3. 手法

ボット開発フレームワークbotkitの導入とボットの実装を行う。ボットの実装では以下の技術を利用する。

1. Botkit
2. Node.js

3. Heroku

3.1 ボットの実装

Slack APIを用いてJavaScriptで作成する。

以下にSlackAPIの例を示す。

hears(コマンド名, メッセージの種類, コマンドの処理)

コマンド名ではユーザからどのようなメッセージに反応するか記述する。メッセージの種類では個人やチャンネルからのメッセージから処理するか記述する。コマンドの処理ではユーザからのメッセージに対しての処理を記述する。

4. 想定される成果物

運用にかかわる様々なタスクを自動化する

5. 進捗状況

Slack上の発言からGitHubのIssueを作成するボットの作成を行うことができた。そのためGitHubAPI, Node.jsライブラリの活用方法を理解した。

6. 今後の計画

以下の順で実行する。

1. チーム活動に必要な要件をまとめる。
2. JavaScriptを用いて機能を実装する。
3. ボットを実際に利用してもらう。

参考文献

- [1] THE PAGE. Ai ボット「tay」はなぜ暴走した? 意外にも長い人工知能の歴史, 2016. <https://thepage.jp/detail/20160402-000000006-wordleaf> (2016.9.20 閲覧)。
- [2] 松下雅和, 小島泰洋, 長瀬敦史, 坂本卓巳. Slack 入門 ChatOps によるチーム開発の効率化. 技術評論社, 第6版, 2016.